

教科書を使って「コミュニケーション英語」をどう実現するか

A new way of activating English classrooms through the use of “kyokasho” designed for high school students

田中茂範

Shigenori TANAKA

慶應義塾大学

Keio University

Abstract

“A communicative way” is a widespread phrase across the nation. It is on every language teacher’s lips in Japan, and yet it still remains to be an unpracticed motto. Of the hindering factors conceivable when it comes to putting the motto into action in classroom situations, “kyokasho,” or a textbook officially authorized by government, ranks among the highest. Schools must use “kyokasho.” For most teachers, it is the target of teaching and the criterion of assessment. There are some who claim that “kyokasho” is nothing but a means of teaching English, but even they are still looking for effective ways of using “kyokasho” for communicative purposes. This paper proposes a new communicative way of using a textbook with a detailed description of what to teach and how to teach it. The assumption is that every lesson provides a unique semantic world (i.e., a story), and the world should be given to students as a whole. On the basis of their understanding the text, students can approach it from different angles: Overview, Language in Text, Content Construction, and Discussion & Presentation. This paper claims that “kyokasho” can be used communicatively in a way that activates classrooms authentically, meaningfully, and personally.

Keywords

A Communicative Way, Kyokasho, Overview, Language in Text,
Content Construction, Discussion & Presentation

1. はじめに

2013年度から新学習指導要領に基づく英語教科書「コミュニケーション英語 I」の使用が全国の高等学校ではじまる。基本的に「授業は英語で」行うということが求められ、本来的な意味で英語のコミュニケーション力の育成に繋がる英語教育実践が本格化することが期待される。

筆者も PRO-VISION という検定教科書の編集責任者を務めており、教科書をどう教えるかについて提案する義務を負っている。そこで、本稿では教科書をどう教えるのがよいか

について、筆者が考えていることを理論と実践の両面において述べていきたい。なお、実践方法については、現段階で使用されている『PRO-VISION ENGLISH COURSE I New Edition』（以下、PRO-VISION I）の中から *A Mason-Dixon Memory* というタイトルの課を取り上げる。これは人種問題を扱ったナラティブなテキストであり、いじめ問題などへの示唆も含まれる。

2. 理論的な考察

ここで提案するのは“a new communicative way”である。学校では「検定教科書」を使用することが義務づけられている。「教科書を教える」のか、それとも「教科書で教える」のかで議論は分かれるが、基本的に教科書の内容を消化することが暗黙の了解となっており、教科書がコミュニケーション型指導の制約になっていることは否めない。筆者は、「教科書をコミュニケーション型に教える」という立場を採用し、それを実践するためには、教科書へのアプローチの仕方を大きく変えなければならないと考えている。以下では、「必要とされる英語力」「英語学習を左右する条件」(田中他, 2005)を取り上げ、次に、新しい指導の方法に関する特徴を明らかにしたい。

2.1 どういう英語力が必要か

「英語はできて当たり前」という状況が生まれている。文化を異にする世界中の人々が英語で情報を発信し、英語で遣り取りを行うという状況が加速度的に進んでいるからである。そういう状況は「多文化状況(multiculturalism)」だとか「グローバル状況(globalism)」という言葉で表される。「どういった英語力が必要か」という問題もそうした文脈を背景に考えなければならない。

まず、「英語力」とは何かを明らかにしなければ指導の指針が出てこないし、教材も狙いを定めることができない。もちろん、評価テストの指針も英語力の定義に依存する。筆者は、英語力とは「どういったタスクをどれだけ効果的に、どういった英語を使ってハンドリングできるか」と考えている。ここには *task-handling* と *language resources* が含まれる。*task-handling* は *can-do* として記述される内容である。一方、*language resources* には語彙力、文法力、慣用表現力が含まれ、それは英語のコマとルールのことである。*language resources* は、あるタスクを英語で行う際の資源であり、*can-do* を言語的に行う際の *can-say* のレパートリーである。

すると、英語力を鍛えるためには *task-handling* の力の養成と *language resources* の充実化が必要ということになる。しかし、同時に、筆者は、「どういった英語力が必要か」についてももう少し踏み込んだ捉え方をしたい。英語教育を人材育成の観点から捉えた場合、「たくましさ」と「しなやかさ」を備えた個人をその目標として想定している。まず、自分で考え、判断し、行動するたくましさが必要である。そして、価値観や意思の異なる者同士の遣り取りにおいては、違いとどう向き合うかが重要である。違いは対立を生み出すことがあるが、同時に違いを乗り越えたとき創造的な共創が可能となる。そのためには、違いにしなやかに対応する力が必要である。

英語教育の中で「たくましさ」を目標に掲げた場合、それは自己表現力と結びつく。プ

プレゼンテーション、スピーチ、ディベートなどを行う力である。一方、「しなやかさ」は対話力と結びつく。ディベートが互いの立場を譲らず相手を負かすポジションゲームだとすれば、ディスカッションは、異なった者同士が協働して合意形成を行ったり、問題解決への道を創り出したりする対話であり、それはコラボレーションゲームである。

一言でいえば、英語による自己表現力と対話力が英語教育の目標である。そして、多文化状況を生きるために必要な「技法(skill)」という観点からいえば、「リサーチ力」「プレゼンテーション力」それに「ディスカッション力」の3つが求められる。欧米と同様に我が国でも21世紀を生き抜くための力として創造力、自立力、自己啓発力、判断力、遂行力、組織力、対話力、共創力などが重要視されているが、これらは、リサーチ、プレゼンテーション、ディスカッションの実践の中で養成されるものである。

まず、意味の共有感覚が担保されない、常識が通じないかもしれないような多文化状況では「何であるか」を知るためのリサーチ力は不可欠である。リサーチには、“re-search”の語形成にヒントがあるように、「再び探る態度、絶えず問い直す態度」が求められる。そして、「何であるか」「何ができるか」「何をすべきか」を実践的に問うのがリサーチである。リサーチ力には、発問力、問題解決のための方法論、社会調査法などの習得が含まれる。これを英語教育に当てはめた場合、英語をただ言葉として学ぶのではなく、英語を使ってリサーチをする実践的態度を学ぶ必要がある、という示唆が得られる。そのためには、英語教育では、個々人のリサーチ力を鍛えるような授業を行わなければならない。

次に、プレゼンテーションの力は「自らの考えを表に差し出す力」であり、会話の場面でもプレゼンテーションが連続的に行われる。もちろん、まとまった時間を使って、改まった形で発表するというのがプレゼンテーションの典型的なイメージである。これは自分の考えを表に差し出すことで、相手の反応を得、それによって次のアクションの仕方を考える機会になる。プレゼンテーションは外部に向けてアイデアを差し出す行為であることから、新しい地平を切り拓く力を持ちうる。ビジネスであれば新しい市場を切り拓く機会にもなるし、学問であれば新たな理論、新たな研究分野の開拓に繋がるだろう。プレゼンテーションは自己表現力そのものであり、「たくましさ」を英語教育的に具現化したものである。

リサーチとプレゼンテーションに加えて、「しなやかさ」の具現化であるディスカッションを養成すべき技能として加える必要がある。ディスカッションによってアイデアの創造、アイデアの言語化、アイデアの共有化が可能となる。アイデアは対話を通して生まれる。個々人の独創的な意見がディスカッションの中で共振したときに、アイデアは創発するのである。対話力は言うまでもなく多文化状況を生きる最大の力となる。

互いが自らをたくましく主張すれば対立が起こる。互いの常識的な思考の枠組みが持つ制約を乗り越えて、意味世界を生産的・創造的に再編成することが対話の成立には必要なのである。コミュニケーションの生産的・創造的機能を最大限に活用できるのがディスカッションである。ディスカッション力を養成することは、対話によって互いの違いを調整する力と、新しいアイデアを創出する力を鍛えることである。

この3つの技能を教室の内外で相互に関連させることが必要である。ディスカッションによって問題を発見し、それをリサーチし、その結果をプレゼンテーションするという流れがあるだろう。また、プレゼンテーションの結果を受けてディスカッションを行い、新たなリサー

チをデザインすることもあるだろう。3つの技能の相互作用が可能になるような場を作ることができたとき、英語の学びは活性化されるのだと思う。

2.2 英語学習を左右する条件

さて話題を変えて、英語学習(英語教育)の成否を左右する変数として、「language exposure の質量」「language use の質量」それに「urgent need の有無」をあげることができる。英語に触れる量は多いほうがよいが、量だけでなく質が重要である。同様に、英語を使うということにおいても、できるだけ多く使うという量の問題と同時に、どういう形で英語を使用するかという質の問題を考慮しなければならない。そして、英語を学ぶ切迫した必要性(urgent need)、英語を使う強い必要性を創り出すことが重要な課題である。それは、教室における場作りの問題でもある。概して、教室内での英語活動は白けるという傾向があるが、そこに切迫した必要性が存在しないからである。

これらの3条件を完全に満たすことはむずかしいが、英語教育はこの条件の充足を自覚した不断の教育的な努力と実践が必要である。特に「質」の条件をどう満たすかという問題はむずかしい。筆者は、language exposure の質、language use の質を条件として満たすためには3つの鍵概念があると思う。それは、authenticity、meaningfulness、そしてpersonalizationの3つである。一言でいえば、authenticでmeaningfulでpersonalな教材と言語活動を提供すること、これが上記の「質」の問題に対処することになるということである。

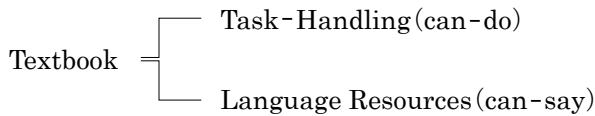
authenticとは「本物である」ということで、白ける(artificial)の対極にある概念である。meaningfulには「理解可能である(comprehensible)」に加え、「おもしろい(interesting)」あるいは「有用な(useful)」などの意味合いも含まれる。いくらauthenticでも理解可能でなければ、それは良質のインプットにはなりえない。ということは、meaningfulnessがauthenticityの条件であるということである。もう1つのpersonalとは、生徒が学びの内容を自分のこととして意味づけできるということを意味する。つまり、自分の生活や人生と無関係ではなく、自分と関わりがあるとして英語学習を捉えることがpersonalizationということである。人はpersonalなものに興味を示すということは一般的な真理である。

3. 新しいコミュニカティブな指導法(A New Communicative Way)

通常、教科書では1つのレッスンが提供するテキスト全体を4つか5つのパートに分けている。700～1000語ぐらいで構成されるテキストを複数のパートに分けているということである。そして従来の指導の仕方では、パートごとに、レビュー、導入、新出語の確認、内容把握、構文チェックなどが行われ、4～5回で一課を終える。これは、パートごとに授業を展開させ、累加的に課の内容を消化するというやり方である。この方法では、課全体の英文を丸ごと味わうことがむずかしいし、同じやり方が反復されるので、授業の流れが固定化し、授業にわくわく感がなくなることが予想される。そこで、教科書を使って授業を活性化させることがいかにして可能か、という問いが出てくる。以下はそれに対する筆者の考えである。

3.1 教科書と英語力の関係

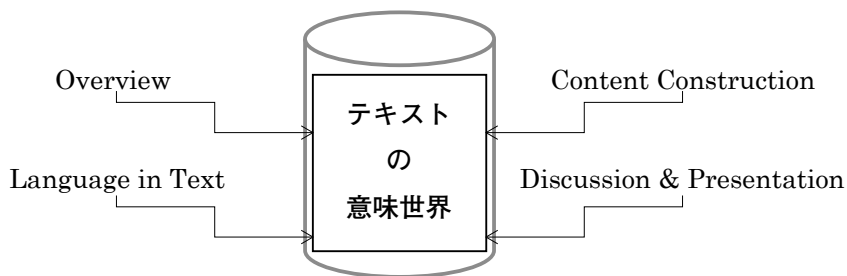
教科書を学ぶことでどういふ英語力が身につくのかと聞かれれば、明快な回答をするのはむずかしい。それは、教科書と英語力の関係が示されていないからである。筆者は、両者の関係を以下のように捉えている。



上述したように英語力とは英語の language resources を使ってタスクをハンドリングする力である。そして、教科書はその両面における力をつけるために利用することができる。「教科書」は英語で“textbook”であり、それは、文字通り、テキストを綴じ合わせたものである。教科書には複数のテキストがあり、それぞれが課を構成している。テキストと英語力の関係でいえば、テキストの内容理解はタスクの1つである。また、テキストの内容についてなんらかのリアクションを行うこともタスクである。すなわち、テキストをめぐる種々のタスクを行うことが可能ということである。と同時に、テキストは language resources を学ぶ上でも有効である。それはある主題に関して書かれた内容がテキストであり、テキストを構成する単語、構文、情報の流れなどに注目することで、有機的に単語や文法や談話構造を学ぶことが可能となるからである。「テキスト」という用語は作品全体を指すこともあれば、作品内の表現を指すこともある。表現としてのテキストに注目すると、作品としてのテキストは、その表現のコンテキスト(context)ということになる。コンテキストを最大活用することで、有意味で有機的な単語や文法の学びが可能となるのである。

3.2 A New Communicative Way の全体像

さて以上の議論を踏まえて、ここで1つのメソッドを提案する。その最大の特徴は、4つのアспект(窓)からテキストの可能性を探索するところにある。それは、(1) Overview, (2) Language in Text, (3) Content Construction, (4) Discussion & Presentation の4つである。



(1) Overview では(a)テキストの文脈化を行うこと、(b)テキストを一気に読むことで全体的な内容を把握することが目標である。テキストの文脈化とは、テキストを社会的、歴史的

に関連づけるということである。(2) **Language in Text** は、テキストを構成する言語をテキストの中で取り上げるという発想である。それによって単語学習や文法学習が生の英語と分離せず、**language resources** を有機的、有意味的に学ぶことが可能となる。テキストを構成する単語のワードマップを作成するというのはわかりやすい事例である。(3) **Content Construction** は“**construct**” (構成する、構築する)というところに最大の特徴がある。テキストを読んで、その内容を「自ら構成する」というのがここでの目的となる。**reproduction** (再生)ではなく**construction** (構成)である。これは生徒のテキストとの積極的な関わりを可能にする。(4) **Discussion & Presentation** は、テキストの中に論点(**issues**)を見出し、そのことについて議論し、その結果を発表するという活動である。ここで、ディスカッションの素材としてリサーチ力が用いられることも当然予想される。

4. 事例を用いた具体的な説明

以下では、英語教科書『**PRO-VISION I**』から *A Mason-Dixon Memory* という課を取り上げ、(1) **Overview**, (2) **Language in Text**, (3) **Content Construction**, (4) **Discussion & Presentation** の流れに沿って実際に行った授業の様態を報告したい。高校1年生(5月の段階)を対象に、1回55分の授業をそれぞれの活動に充てた。なお、テキストのタイプによって、それぞれの活動の具体的な内容は異なるし、活動の順番やそれぞれの活動にかかる時間においても柔軟性があってよい。

4.1 Overview

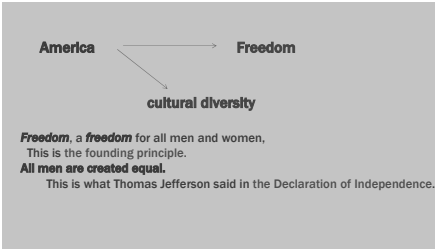
まず、**Overview** には文脈化とテキスト全体の意味を捉えるという2つの狙いがある。全体の中のテキスト(テキストが位置づけられる状況)、そしてテキスト全体における「全体」が **Overview** の最重要ポイントである。

4.1.1 文脈化(社会的文脈と歴史的な文脈)

A Mason-Dixon Memory ではアメリカにおける差別問題が話題として取り上げられているが、本課を読む前に、その歴史的、社会的な位置づけを行うことが **Overview** の第一の狙いである。アメリカには「自由(**freedom**)」があるが、同時にそれが「多様性(**diversity**)」を生み出すという側面を話題として導入する。**freedom** は独立宣言においても高らかに謳われた建国の理念である。しかし、文化的な多様性は、心理的には偏見(**prejudice**)を、行動的には差別(**discrimination**)を生み出す。そこで自由を求める戦いが起こり、暴力(**violence**)に訴えかける戦いと非暴力(**nonviolence**)に訴えかける戦いが起こる。アメリカでは奴隷制度(**slavery**)によって人種差別が行われ、リンカーンの奴隷解放宣言(**Emancipation Proclamation**)以降も差別が続いている。こうしたアメリカの事情を以下のようなスライドを通して生徒に説明していく。

①

**MIND MAP : AMERICA
IDEALLY**

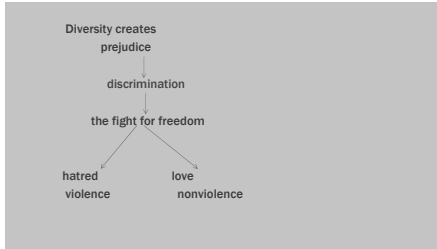


America → **Freedom**
↓
cultural diversity

Freedom, a **freedom** for all men and women,
This is the founding principle.
All men are created equal.
This is what Thomas Jefferson said in the Declaration of Independence.

②

CULTURAL DIVERSITY AND REALITY



```

graph TD
    A[Diversity creates prejudice] --> B[discrimination]
    B --> C[the fight for freedom]
    C --> D[hatred violence]
    C --> E[love nonviolence]
  
```

③

THE DARK SIDE OF AMERICA

- **Slavery in the United States**
1776-1865 (the 13th Amendment to the United States Constitution)
- **The Emancipation Proclamation**
an executive order issued by U.S. President Abraham Lincoln on January 1, 1863, during the American Civil War.
- **Racial Discrimination**

even in 1960s, and even today

④

THE EMANCIPATION PROCLAMATION: TEXT

By the President of the United States of America:
A Proclamation.

Whereas, on the twenty-second day of September, in the year of our Lord one thousand eight hundred and sixty-two, a proclamation was issued by the President of the United States, containing, among other things, the following, to wit:

"That on the first day of January, in the year of our Lord one thousand eight hundred and sixty-three, all persons held as slaves within any State or designated part of a State, the people whereof shall then be in rebellion against the United States, shall be then, thenceforward, and forever free
.....

[originally hand-written document]

⑤

THE GETTYSBURG ADDRESS - TEXT

..... It is rather for us to be here dedicated to the great task remaining before us – that from these honored dead we take increased devotion to that cause for which they gave the last full measure of devotion – that we here highly resolve that these dead shall not have died in vain – that this nation, under God, shall have a new birth of freedom – and that government of the people, by the people, for the people, shall not perish from the earth.

ここでのスライドには The Gettysburg Address が含まれているが、本課でもその一部が引用されており、全文を示しておくこれから学ぶ本課にリアリティを与えることができる。また、以下のスライドで見せる Martin Luther King, Jr. の演説は本課の内容とリンクしており重要である。また、**freedom** が現在もお重要なコンセプトであることを示すのに Barack Obama の就任演説の締めくくりの部分を導入するのもよいだろう。

⑥

**"I HAVE A DREAM," A 17-MINUTE PUBLIC SPEECH BY
MARTIN LUTHER KING, JR. DELIVERED ON AUGUST
28, 1963**

"I have a dream that my four children will one day live in a nation where they will not be judged by the color of their skin but by the content of their character."

⑦

**MARTIN LUTHER KING, JR.
I HAVE A DREAM**

Let Freedom Ring

When we let freedom ring, when we let it ring from every village and every hamlet, from every state and every city, we will be able to speed up that day when all of God's children, black men and white men, Jews and Gentiles, Protestants and Catholics, will be able to join hands and sing in the words of the old Negro spiritual, "Free at last! free at last! thank God Almighty, we are free at last!"

Even now

⑧

**OBAMA INAUGURAL ADDRESS
(2009)**

■ Let it be said by our children's children that when we were tested we refused to let this journey end, that we did not turn back nor did we falter; and with eyes fixed on the horizon and God's grace upon us, we carried forth that **great gift of freedom** and delivered it safely to future generations.

Obama は freedom を、継承し続けるアメリカにとっての “a great gift” と呼んだが、以下のスライドに見られるように実際は、現在も差別は存在するという指摘をするのもよいだろう。そして、本課のテーマである Mason-Dixon line とは何であるかを示すことはこの Overview では必須である。

⑨

**EVEN TODAY, RACIAL DISCRIMINATION OR
RACISM PERVADES THE U.S.**

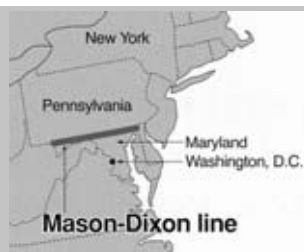
August 4, 2008

Majority of Americans Say Racism Against Blacks Widespread
More than three-quarters of blacks say racism against blacks is widespread
by Jeffrey M. Jones

PRINCETON, NJ – A recent USA Today/Gallup poll finds most Americans saying racism is widespread against blacks in the United States. This includes a slim majority of whites (51%), a slightly higher 59% of Hispanics, and the vast majority of blacks (78%).

⑩

MASON-DIXON LINE



『PRO-VISION English Course I New Edition』ピアソン
桐原, 2012, p. 80.

4.1.2 テキスト全体をチャンクによって読む

次に Overview では一課を通して読むことで意味の全体像を掴むという狙いがある。ここでは生徒が英文の意味世界を感得できるかが鍵となる。全体を一気に読むのはむずかしい

と感じて、丁寧に英文を紐解く方法を採用する教師が多いが、やはり英文は通して読む必要がある。そして、生徒の英語力で英文の世界にアプローチ可能にするのが教師の役割であり、腕である。そのためのきわめて有効な方法がチャンキングである。

通常、英文はパラグラフ単位で書かれている。それは1つのブロックを成しており、そのままでは構文的な複雑さや、意味の解釈の複雑さを調整することはできない。しかし、チャンキング(息継ぎの単位で英文を断片化すること)を行うことで次の(1)(2)(3)のような効果が得られる。

- (1) 構文の複雑性の縮減
- (2) 意味の可視化
- (3) 英語的発想の習得

第一に、複雑な構文があっても、チャンキングすることで、自然に情報処理しやすくなる。第二に、チャンクの流れは、平均して7語±2語程度の長さであり、英語から事態を構成しやすくなる。そして、第三に最も重要なこととして、英語はチャンキングによって表現活動が行われる。チャンク化したテキストを読むことで、英語の発想を感得することができる。たとえ、チャンクに日本語訳を与えたとしても、それは「英文和訳」ではなくチャンク訳である。つまり、英語の発想が日本語で表現されているということである。

以下は、*A Mason-Dixon Memory* 全文をチャンク化したテキストである。

⑪

**MASON-DIXON MEMORY – CHUNKED
TEXT**

Recently I heard some sad news.
A black student was not allowed to play golf
at a club
because of his skin color.
This brought back
my own childhood memories
from 32 years ago.
I was a poor black boy of 13 years,
living with my mother and father
in a black area of New York.
One day,
my teacher announced a trip to Washington, D.C.

⑫

MASON-DIXON MEMORY - TEXT

I hurried home
with a letter about the trip
and showed it to my mother.
Seeing the cost, however,
she shook her head.
We did not have enough money.
After feeling sad for a few seconds,
I decided to pay for the trip myself.
For the next eight weeks,
I sold candies
and delivered newspapers.
Three days before the deadline,
I had made just enough money.
"I can go!"

⑬

MASON-DIXON MEMORY - TEXT

Feeling very happy on the day of the trip,
I got on the train.
I was the only black in our group.
Our hotel was not far
from the Lincoln Memorial.
My roommate was Frank.
Leaning out of our window
and dropping water balloons on tourists,
we quickly made friends with each other.
At the Lincoln Memorial,
together we had read the famous words
from Lincoln's speech at Gettysburg:
"...this nation,
under God,
shall have a new birth of **freedom**!..."

⑭

MASON-DIXON MEMORY - TEXT

The next morning,
a teacher said,
"Clifton, could I see you for a moment?"
Frank turned pale.
One of our water balloons
had hit a lady and her dog the night before.
"Clifton,"
the teacher began,
"do you know about the Mason-Dixon line?"
"No," I said,
wondering what this had to do with
dropping water balloons.

15

MASON-DIXON MEMORY - TEXT

"Before the Civil War,"
the teacher explained,
"the Mason-Dixon line was
the line between Pennsylvania and Maryland,
the line between the free and slave states.
Today,
the Mason-Dixon line is a kind of invisible border
between the North and the South.
When you cross that invisible line
into Maryland,
things change.
We are going to Glen Echo Park ...
It's in Maryland,
and black people can't go in."

16

MASON-DIXON MEMORY - TEXT

"You mean I can't go to the park,"
I asked,
"because I'm black?"
She nodded slowly.
"I'm sorry, Clifton,"
she said,
taking my hand.
Back in my room,
I began to cry.
I was very sad.
That was not only
because I could not go to the park.
For the first time in my life.
I was learning
what it felt like to be black.

17

MASON-DIXON MEMORY - TEXT

"What's the matter?"
Frank asked.
"They don't let me go to Glen Echo Park tonight."
"Because of the water balloon?"
he asked.
"No."
I answered,
"because I'm black."
"Well, that's a relief!"
Frank said,
and then he laughed.
He was relieved to have escaped punishment.
"I thought it was serious."
I stared at him.

18

MASON-DIXON MEMORY - TEXT

"It is serious.
They don't let black people go into the park.
I can't go with you!"
I shouted.
"Then I won't go, either."
Frank smiled.
I will never forget that moment.
Later the room was filled with boys
listening to Frank.
"They don't allow black people in the park,
so I'm staying with Clifton."
"Me, too,"
a second boy said.
"I'll stand by you, Clifton,"
a third agreed.

19

MASON-DIXON MEMORY - TEXT

In the end,
eleven white boys decided not to go.
They wanted to go to that park
as much as I did,
but they knew
that there was something even more important.
That night,
another teacher came to our room,
holding an envelope.
"Boys,"
he shouted.
"I've just bought 13 tickets to go the Senators-Tigers game.
Anybody want to go?"
There were shouts of happiness.

20

MASON-DIXON MEMORY - TEXT

On the way to the ball park,
we made a short stop at the Lincoln Memorial.
For one long moment,
I stared at the statue of Lincoln
in the warm yellow light,
recalling that line.
"This nation,
under God,
shall have a new birth of freedom."
In his life,
Lincoln said
that freedom is not free.

21

MASON-DIXON MEMORY - TEXT

Every time
the color of people's skin keeps them out of a park or a golf club,
the fight for freedom begins again.
Sometimes people fight with fists and guns,
but very often
the most effective "weapon" is
a simple act of love and courage.

22

MASON-DIXON MEMORY - TEXT

When I hear those words
from Lincoln's speech,
I always remember
my eleven white friends.

The kind of love they showed me
will win against hatred every time.

このチャンク化したテキストを利用して、reading aloud, shadowing, overlapping などの活動を行うことができる。実際の授業では、ネイティブスピーカーに情感を込めてテキストをチャンク読みしてもらい、それに生徒が reading aloud で応じた。約束事として生徒が行うのは、「話の流れが理解できないときは手をあげる」という1点である。途中で生徒が理解困難と感じるような箇所では、教師が適宜理解の確認を行った。読み進めていく過程で、教師がコメントを日本語あるいは英語で入れると物語の展開に臨場感が出てくる。例えば以下のとおりである。

㉓ 教師のコメント



㉔ テキストの流れ

*I hurried home
with a letter about the trip
and showed it to my mother.
Seeing the cost, however,
she shook her head.*

「どうしてだろう?」という発問によって生徒は、先行する文章の “I was a poor black boy of 13 years” と関連づけ、she shook her head に続く “We did not have enough money.” を予期する。それが「だからそうなんだ」という読みに繋がる。

テキストを読み終えた時点で、全体的な理解の確認を行うと同時に、文脈化で使った資料に立ち戻り、関連性を理解させる。特に、Cultural Diversity and Reality のタイトルのスライドが本文の流れを要約する役目を果たす。最後に、以下の2つを与え、その内1つを選んで次回に提出するという課題を与える。

- 宿題 (1) In this story, I like the part where ... because ...
(2) My favorite expression in this story is ... because ...

4.2 Language in Text

英語学習では、英語の単語や文法を学ぶ必要がある。task-handling のための language resources が必要である。単語は有機的に関連した形で学ぶのがよいし、文法も実際の英語の中での働きを見るのがよい。Language in Text の視点は、この2つのよいことを実践する上で不可欠である。というのは、Language in Text はまさに、「テキストを構成する言語」という視点から語彙、文法、談話構造を学ぶという視点だからである。

文法にリアリティが感じられなければ、学習上の負担になるだけである。しかし、文法のない言語は存在しないし、文法力なくして英語力はない。文法にリアリティを与えるためには、Grammar in Text という視点に注目する必要がある。以下は、1つの実践事例であるが、A Mason-Dixon Memory は doing の形が多用されており、そこに注目した指導を行った。テキスト内で使われている doing は以下のとおりである。

I was a poor black boy of 13 years, living with my mother and father in a black

area of New York.

Seeing the cost, however, she shook her head.

After feeling sad for a few seconds, I decided to pay for the trip myself.

Feeling very happy on the day of the trip, I got on the train.

Leaning out of our window and dropping water balloons on tourists, we quickly made friends with each other.

“No,” I said, wondering what this had to do with dropping water balloons.

We are going to Glen Echo Park ...

“I’m sorry, Clifton,” she said, taking my hand.

For the first time in my life, I was learning what it felt like to be black.

Later the room was filled with boys listening to Frank.

“They don’t allow black people in the park, so I’m staying with Clifton.”

That night, another teacher came to our room, holding an envelope.

For one long moment, I stared at the statue of Lincoln in the warm yellow light, recalling that line.

ここでは進行形の doing と分詞構文の doing が混在しているが、それを同時に見せることで両者には共通性があることに気づく。「未完結で連続的」が現在分詞のポイントだが、分詞構文の場合には、以下のような説明を加えた。

分詞構文 doing の働き

doing

~~~~~

主節

解説：「主節で語られた行為と切れ目なく、重なり合うように状況を示す」

こういった説明があることで、Feeling very happy on the day of the trip, I got on the train. のような表現を英語感覚的に理解することが可能となる。

Language in Text の活動を通して、文法がより正確で、より深い読み(英語感覚的な読み)を可能にすることを生徒に納得させることができれば、彼らの文法学習への意欲を高めることに繋がるだろう。主語に注目したテキストの読み方、助動詞に注目したテキストの読み方、テンス・アスペクトに注目したテキストの読み方などさまざまな可能性が考えられる。

また、語彙学習においても、既習単語と未習単語の区別をすることなく、テキストを構成する語彙という観点から語彙の学習を行えば、話題展開型のネットワークで単語を学ぶことができる。ほかにも、時系列で名詞(や動詞)を整理するだとか、前置詞の使い方に注目するだとか、基本動詞の使い方に注目するなどいろいろな可能性が考えられる。

筆者としては、Language in Text の Language には談話も含めたい。すなわち、説明型、問題発見解決型、物語型、政策提言型など文章のテキストタイプによって情報の組み立て方は異なるが、テキストによっては情報の組み立て方(情報の流れ)に注目させることで、

読みの力だけでなく文章作成力などにも貢献が期待できよう。

### 4.3 Content Construction

何かを読むという行為には、当然、内容理解(content comprehension)が含まれる。しかし、「コミュニケーション英語」においては“reading comprehension”だけでなく“read and react”の観点が必要である。ここでいうreactは読んだものに対するリアクションを行うということであり、その仕方にはreporting, summarizing / paraphrasing, commentingの3つが含まれる。reportingはテキストの内容をそのまま報告するというもので、これは報道的手法である。書かれていた事実を報告するという意味においてfact-statementの典型である。一方、commentingは読んだものに対する個人的見解を述べる行為であり、これはopinion-statementの典型である。そして、summarizing / paraphrasingはテキスト内容の要約・言い換えであるという意味においてはfact-statementであるが、どのように要約・言い換えをするかに読み手の主観が関与するという意味においてopinion-statement的でもある。

さて、ここで提案する活動は以上の3つを総合化したContent Constructionである。内容の再構成ではなく、「内容の構成」である。個々の生徒がContent Constructionを行うこともあるが、授業ではグループ活動として位置づけたい。まず、reporting的な側面をカバーするためのContent Construction sheetを教師が準備し、それを生徒に配布して情報を補充させる。

②5

**CONTENT CONSTRUCTION SHEET-1**

Now the story begins: Clifton was a poor black boy of 13 years and he lived with his parents in a black area of ( ).

One day, the teacher announced the students about \_\_\_\_\_.

He got excited and hurried home. He showed the letter to his mother.

Mother's reaction: \_\_\_\_\_.

②6

**CONTENT CONSTRUCTION SHEET-2**

Now the long awaited trip starts: Although he was the only black student in the group, he was very ( ) and got on the ( ).

The hotel they stayed \_\_\_\_\_.

Location: \_\_\_\_\_  
Clifton's roommate: \_\_\_\_\_

Clifton and Frank made friends with each other through \_\_\_\_\_.

次に、reporting, summarizing / paraphrasing, commentingを含んだ活動としてグループで協力してテキストの内容構成を行わせる。その方法の1つは、画用紙などを用意し、何枚かつなぎ合わせた画用紙に、グループがテキストから読み取った内容を作り上げていくというものがある。以下は、実際に生徒が作り出したContent Constructionの具体例である。

⑳

## CONTENT CONSTRUCTION - OUTPUT 1



㉑

## CONTENT CONSTRUCTION - OUTPUT 2



これは生徒自身が仲間と協働して作り出した産物である。これを使ってクラス内での発表を行うと、発表活動が **authentic** になる。また、これは協働(コラボレーション)活動であるため、英語に苦手意識を持っている生徒も絵画などにおいて貢献することが考えられる。そしてその貢献が英語学習の動機づけに繋がるということがある。

#### 4.4 Discussion & Presentation

4つ目の窓は **Discussion & Presentation** である。テキストの内容の中にはほとんど必ず争点として議論するものが含まれている。その問題に注目した議論 (**discussion**) をグループ内で行い、それを教室内で発表 (**presentation**) するというものである。ここでは生徒が中心になって、英語だけで授業の流れを作る方法を紹介する。このセッションの流れを作るために必須なのが **chairing** (議事進行) である。教師は、そのためのカードを準備する。「チェアー (**chair**) のリレー」という考え方が背後にある。すなわち、議事進行を例えば11名のリレーで行うというものである。すると、**chairing card** として11枚を用意する。25名のクラスであれば、25枚のカードを用意し、その内11枚が **chairing card** であり、残りはテキストからのセンテンスを記したカードである。それを箱に入れ、生徒に1枚のカードを抜き取らせる。最終的に11名の議事進行役をする生徒が決まる。

㉒

## DISCUSSION &amp; PRESENTATION



カードの内容をすべて書いた紙を生徒全員に配布し、読み方の訓練を行う。読みを通し

て言い方の訓練になるだけでなく、授業内で行われる内容を流れとして確認することもできる。ここでのルールは、チェアー役の生徒の指示(カードに書かれた内容)に従って行動するというものである。下記スライド30(chairing(1))と32(chairing(2))では、テキストの中から争点になる箇所を確認し、その部分を生徒が実演するというものである。

30

**CHAIRING (1)**

OK, now, everyone. Let's start. Let me introduce myself. I'm [ ]. I'm chairing this discussion and presentation session. Today, we are going to talk about "A Mason-Dixon Memory." As you remember, we've already read the whole story more than once. However, let us take a look at the passage we focus on once again.

31

**A PASSAGE**

"What's the matter?" Frank asked.  
 "They don't let me go to Glen Echo Park tonight."  
 "Because of the water balloon?" he asked.  
 "No," I answered, "because I'm black."  
 "Well, that's a relief!" Frank said, and then he laughed. He was relieved to have escaped punishment. "I thought it was serious."  
 I started at him. "It is serious. They don't let black people go into the park. I can't go with you!" I shouted.  
 "Then I won't go, either," Frank smiled.  
 I will never forget that moment.  
 Later the room was filled with boys listening to Frank.  
 "They don't allow black people in the park, so I'm staying with Clifton."  
 "Me, too," a second boy said. "I'll stand by you, Clifton," a third agreed.  
 In the end, eleven white boys decided not to go. They wanted to go to that park as much as I did, but they knew that there was something even more important.

32

**CHAIRING (2)**

Hi, my name is [ ]. I'll ask two of you to act out. Let me ask Mr. [ ] and Mr. [ ] to stand up and act the roles of Clifton and Frank. Mr. [ ], and Mr. [ ], could you play the small roles of A and B? And Miss [ ], could you be the narrator, please? Now, are you ready? Let's start.

33

**CONVERSATION BETWEEN CLIFTON AND FRANK**

F: "What's the matter?"  
 C: "They don't let me go to Glen Echo Park tonight."  
 F: "Because of the water balloon?"  
 C: "No... because I'm black."  
 F: "Well, that's a relief!" "I thought it was serious."  
 C: "It is serious. They don't let black people go into the park. I can't go with you!"  
 F: "Then I won't go, either."  
 F: "They don't allow black people in the park, so I'm staying with Clifton."  
 A: "Me, too."  
 B: "I'll stand by you, Clifton."  
 = Narrator: In the end, eleven white boys decided not to go. They wanted to go to that park as much as I did, but they knew that there was something even more important.

34

What's the matter? They don't ....



次ページのスライド35(chairing(3))と36(chairing(4))で、その抜き出した英文から出てくる争点を明らかにする。A Mason-Dixon Memory の中で11人の生徒たちは公園に行くよりもっと大切な何か("something even more important")があることに気づくが、その中身はテキストでは語られていない。そこで、「それはどういうことか」が争点の1つとなる。そして、アメリカでは「違って当たり前」という文化価値があることから、11人が同じ結論に達しなくてもよいのではないかとすることに着眼した争点をあげることができる。しかし、時間の

関係で、ここでは争点1に限定することをスライド37(chairing(5))で明らかにする。

35

### CHAIRING (3)

Thank you. This is, I think, the most impressive passage in the story. Oh, my name is [ ]. I'll take over. Now we have two questions.

**Question [1]:** This passage says, "They knew that there was something even more important." What is "something even more important" to them? The "something" might be different according to the children who were there. Try to describe their possible ideas about "something even more important."

36

### CHAIRING (4)

Hi, my name is [ ]. Let's us move on to the second question.

**Question [2]:** Is it necessary for all of the white kids to decide not to go to the park and stay with Clifton? In America, kids are taught: I'm different. You're different. And we are all different. If so, people should have different opinions and take different actions. What do you think about this?

37

### CHAIRING (5)

Let me take over. My name is [ ]. Because of the time limitation, we will focus on question 1 only.

Now, we're a group of 25. So let us make five groups of five people. You make five groups as you like. I'll give you one minute.

OK, time's up.

またスライド37(chairing(5))とスライド38(chairing(6))では、5つのグループに分かれて議論をすることを告げ、実際にグループ分けと議論の時間について明示する。スライド39(chairing(7))でグループの議論を受け、発表に移ることを告げる。

38

### CHAIRING (6)

I'm your chair now. I'm [ ]. Now, I want you to talk about the first question. The goal of your discussion is to reach the group opinion about question 1. Let's have an active discussion. You have 15 minutes.

<<15 minutes passed>>

39

### CHAIRING (7)

All right. My name is [ ]. Time's up. I think all of you are ready to make a presentation in class. Decide who is going to make a presentation. The person selected makes a presentation about his or her group opinion in 3 minutes. Those of you who have been selected, please stand up. Let us decide the order of presentation - which group comes first.



そしてスライド40 (chairing(8))とスライド41 (chairing(9))で各グループの発表に移る。スライド42 (chairing(10))でフィードバックセッションを行い、スライド43 (chairing(11))でセッションを締めくくる。

④0

**CHAIRING (8)**

All right, now, from now on, I'll be your chair. My name is [ ]. The first presenter group, please come forward. You have 3 minutes. Now, let's listen to their presentation carefully.

<<the first presentation>>

Thank you very much. Give them a big hand. Let's move on to the second presenter group. You can start whenever you are ready. You have 3 minutes.

<<the second presentation>>

④1

**CHAIRING (9)**

Thank you for your presentation. My name is [ ]. How about the third presenter group? Are you ready to start? OK, let's get started.

<<the third presentation>>

Thank you. Let's move on. The fourth presenter group, get started.

<<the fourth presentation>>

OK, thank you very much. Now the last group makes a presentation

<<the fifth presentation>>

④2

**CHAIRING (10)**

OK, now, let's move on to the feedback session. First of all, I'd like to ask Mr. [ ] to make an overall comment on our presentations.

T's comment

Thank you very much. I'm sure you have a lot of questions, but unfortunately, we don't have much time left. So I'd like to take 3 questions. Please make sure you have a question to whom and about what.

④3

**CHAIRING (11)**

Thank you. My name is [ ]. Now, the five groups have made their presentations. And we've had a short feedback session. This is our first time to give a presentation in class, and I think we've done a good job. Time is running out, but if you have any last questions, please raise your hand. No questions? All right, then, I think that's about it. We now close this session.

このように、このセッションでは生徒が活動の中心になって授業が進む。chairing cards は技法として有用なものである。カードを使わないで議事進行が行えるようになること、アドリブでコメントを適宜加えることができるようになることが目標である。

## 5. おわりに

英語教育で求められるのは授業の活性化である。「英語が好き、楽しい、使える」といった印象を持つ生徒の数を増やさなければならない。「授業は英語で」行うというのは、それを目的化した場合、新しい授業の可能性が閉ざされる可能性がある。従来のやり方を英語で行えばその目的が達成されたと考えてはならない。英語で授業する最大の意義は、「英文和訳」という従来の授業スタイルからの脱皮を可能にするということだと思う。英文和訳は、英語という言葉が置き換えの中で理解され、生徒の英語に対する意識が生の英語のありようから遠のいてしまう。しかし、「授業は英語で行うこと」が重要なのではない。そうではなく、教科書を使って「コミュニケーション英語」をどうやって実践するかである。本稿はその1つの提案である。

## 謝辞

本稿で紹介した実践事例の内容は筆者が智学館中等教育学校(水戸市)で行った授業をもとに構成したものである。ここに実践授業の機会を与えてくれた同校の生徒と先生方に感謝の意を表したい。

## 参考文献

Jones, J. M. (2008, August 4). Majority of Americans Say Racism Against Blacks Widespread. *Gallup News*.

Available:

<http://www.gallup.com/poll/109258/majority-americans-say-racism-against-blacks-widespread.aspx>

[2012, October 11]

田中茂範・アレン玉井光江・根岸雅史・吉田研作 2005. 『幼児から成人まで一貫した英語教育のための枠組み— ECF —』 リーベル出版.

原口庄輔・田中茂範他 2012. 『PRO-VISION English Course I New Edition』 ピアソン桐原.